



茗溪 かながわ

MEIKI KANAGAWA

NO.14

発行 神奈川茗溪会 (旧 茗溪会神奈川支部) 発行者 大畑多津雄

平成 31 (2019) 年 6 月

茗溪かながわ 第十四号の発行に際して

〜想うところあり〜

神奈川茗溪会会長 大畑多津雄

七月の総会で矢野前会長から会長職を引き継いで早や半年、この間、産業人倶楽部の立ち上げ、箱根駅伝の応援(本誌四ページ参照)など、神奈川茗溪会としては、これまでにない新たな取り組みをしてきました。

私は東京教育大学最後の卒業生です。筑波大学が開校して四十二年が経とうとしています。これまでの筑波大学の歩みは、国内的にも国際的にも開かれた総合大学として確立されてきています。

そうした流れを受け、平成二十九年年度の学群進路状況を見ると、卒業生全体の43%にあたる980名が就職していますが、その内807名(82%)が民間企業であり、わずか43名(4%)が教職に就くのみです。こうした現状を踏まえて会の維持・発展を考えたとき、企業に進む同窓を取り込むための算段を整えるのは至極当然のことと思います。本部に做って、神奈川茗溪会としても同様の流れを作ろうとしています。今後、我が同窓会に加入してゆく卒業生を多く受け止めるためにも、産業人の会の活動を軌道に乗せて、同窓の取り込みを進

めていくことで、会の発展を図るのが時代の趨勢だと思えます。

しかし、一方で厳しい課題が山積する昨今の教育に思いを馳せれば、様々な状況に適応できる多様性・柔軟性のある優秀な教師がますます求められています。

そうした日本の教育を支えていく有為な人材を子供たちのもとに送り届けたい。高等師範、東京高師、東京文理大、東京教育大と脈々と流れてきた教育に対する熱き想いは、筑波大学につながる我々の大学の変遷の中にあっても、守らなければならない大事な「魂」であることに変わりはありません。

教育について語るときに「不易と流行」という表現が用いられることが多いですが、「流行」に足場を置きつつ、同窓会としての「不易」の部分は、先輩諸氏が大切に育んできた「魂」として、今後も大切にしていきたいと思えます。

日本の本 教への庭に
いと高き 学舎ありと

人も知る 茗溪の水

よし洒れよ 濁さんよりは

神奈川茗溪会 親睦ゴルフコンペの開催

茗溪会同窓の第二回目の親睦ゴルフコンペです。十一月二十二日、昨年と同じく秦野「東京カントリーゴルフ倶楽部」で開催されました。

当日は、五月九日以来の十五度を切る低い気温で、雨の予報でしたが、不思議と雨に出くわすこともなく、プレーを楽しむことができました。

参加者十一名で三組でした。(組合せは以下の通りです)。

大先輩の杉山浩一郎氏(s29教日)からトロフィーを寄贈していただき、コンペに相応しい盛り上がりとなりました。

来年も同じ時期に第三回の親睦ゴルフコンペを開催する予定です。同窓として、老いも若きも肩を並べ、ゴルフを楽しみながら、語らい、親睦を深め、さらに広めたいと思います。

広報紙や総会の場を通じて、広くご案内させていただきま

す。ゴルフは年齢層が厚く、様々な業界に属する方々が気軽に集える競技かと思えます。

どうぞ、奮ってご参加くださいますよう!

(文責 大畑多津雄 S52 教教)



杉山氏寄贈のトロフィーと最初に受賞した大畑会長



参加者と組み合わせ敬称略)
【一組】林忠(s58 筑一自)、熊澤茂(s45 教農工)、村松誠(s50 教健)、大畑多津雄
【二組】新木康徳(s41 教体)、落信久(s43 教体)、矢嶋博(s45 教体)
【三組】大辻昇(s42 教総農)、高橋正(s42 教総農)、鈴木克己(s39 教生)、水江彰一(s37 教英)

神奈川で開かれた茗溪のつどい

三つの集いの合同開催

- ・若手の会（若手交流会）
- ・産業人の会（神奈川産業人倶楽部）
- ・若手教員の会（新泉組）

十一月十七日（土）は、若手交流会の開催日でした。十一月の第三土曜日、横浜スカイビル十一階の中華店『大陸』と決まっています。平成年代の卒業（修了）生を対象とした交流会で、教育関係者、研究者、企業人、行政職など多士済々のメンバーが集まります。

八回目となる当日は茗溪本部で理事会があり、川田理事と矢野理事のお二人は、理事会終了後に会場に駆けつける手筈でした。事情をご存知の江田理事長は、理事



教育行政の同窓と談笑する川田理事(向こう側)

この日は、若手交流会と他の二つの会との合同開催が予定されていました。

一つは、中道徹副会長が手がける「神奈川産業人倶楽部」

一つは、大畑多津雄会長が指導する「若手教員の会（新泉組）」です。



若手交流会に合流して、挨拶する新泉組の面々

左から、祐松智紀(H29 筑院教、数学)、原口楓規(H30 筑院教、数学)、向井桜(H31 筑院教、国語)、平山明広(H22 筑院日、国語)以上、敬称略

若手教員の会は別室で研鑽会を行った後で合流しました。すでに、産業人倶楽部と若手交流会は宴を始めており、そこに若手教員が合流する形となりました。

「定期的な研鑽と交流を通して、神奈川の教育を牽引する人材となつてほしい。『新泉組』の由来は、教員採用二次対策を茗溪会館の新泉の間で実施しており、その受講者のつながりという意味が込められている」という大畑会長からの紹介を受けて、若手教員の自己紹介があり、一同揃つての乾杯となりました

茗溪会は教員集団としての同窓会から脱皮し、総合大学を卒業する多くの産業人を取り込もうとする動きを進めながらも、これまで日本の教育を支えてきたという矜持を、今こそ持つべきであるという基本を確認し、乾幹事による手締めとなりました。



若手教員(新泉組)と談笑する矢野理事(中央)

▼大畑多津雄（会長）
これまで教員が中心であった茗溪会から、県内の産業人を結集した組織づくりへと、積極的に進めていきたい。

▲塚本格（H8 社工 武田薬品）
確かに、他大学と較べると同窓の繋がりが薄いとこがある。茗溪産業人のネットワーク作りは有益である。自分も協力したい。

さて、神奈川産業人倶楽部に話を移します。

八月十八日（土）午後六時から発足準備会が開かれ、概ね次のような話し合いとなりました。



▲中道徹（企業担当副会長）
年度内に産業人の呼びかけにより会の発足ができればと考えている。神奈川には若手の会があり、産業人も多く参加しているので、なんらかのクラブができるのではないかと考えている。

▼加藤充洋（会長代行）
総会の呼びかけや会報送付のための名簿があるので、それを活用して産業人を抽出し、呼びかけることはできる。今後は、業種等の把握ができるように工夫する。

▼小泉いづみ（行政担当副会長）
行政も産業人の会に属する。女性の参加者を増やす企画も必要に思う。



参加者：矢野理事、塚本格氏、大畑会長、加藤会長代行、小泉行政担当副会長、出井学校担当副会長、山崎企業担当副会長、望月地区担当副会長、山田地区担当副会長、大石事務局長、添野事務局庶務

厚木の会(愛厚海)

第三回目の愛甲・厚木・海老名地区の会合で、また素敵な出会いがありました。今回初参加の中村元彦氏(H6 筑大 厚木北高校教頭)と仲貴晴氏(S49 教大農化)との出会いです。

第一回目の会合では、この会代表の米田二良氏(S49 教大教)と小川秀雄氏(S50 教大化学)の部活動の先輩と後輩の出会いでしたが、今回は師弟の出会いです。中村氏は、教員となった中弥氏の最初の赴任先(県立川和高校)の生徒で、当時は生物を教えていただいたと云っています。卒業が平成二年ですから、卒業以来とすれば実に二十八年ぶりとなります。



当日は初参加の方も数名いらつしやいましたが、やはり同窓、あつという間に打ち解け、あちこちで笑いが沸き起こっていました。毎回、自己紹介の際にテーマが設定されますが、今回は「アカデミックに」ということでした。大学時代や現在の研究や興味関心を交えながら、楽しい自己紹介となりました。



中村氏と中弥氏。帰り際、高校の同窓に送りたいと、ツーショット

茗溪十二月会

十二月一日(土)、恒例の会が『上海料理 状元楼』で開催されました。校長・副校長・教頭・総括教諭・行政職の方で構成される会です。前会長から「名称をなんとかしろ」と言われ、『茗溪十二月会』と改称させていただきます。十二月第一土曜日が例年の開催となっていることから、この名称としました。

矢野理事、大畑会長、西村顧問を来賓としてお迎えし、二十三名の会合となりました。当日は、PTAの県大会が行われたようで、その中で、新城高校の広報部が「校長先生の一日」という特集を発表し、パシフィコ横浜の大会面に当時の校長であった加藤充洋氏の様子が映し出されたようです。



それを観た現役の校長から報告があり、大いに盛り上がりました。

中野久美子氏(S57 筑体 麻生総合高等学校校長)の司会振りも板についてきました。

この会が神奈川の公教育の発展に資するものとして末永く継承されることを祈念し、大石氏(城山高校長)のエールによって、盛会の裡にお開きとなりました。



加藤充洋氏(S56 筑一社)と堤誠一氏(S55 筑二人間)の“卒業の挨拶”で盛り上がる会場

神奈川茗溪会の総会・講演会と懇親会のお知らせ

開催日時 平成31年7月27日(土) 11:00～(受付 10:45)

開催場所 ローズホテル横浜 (☎ 045-681-3311)

- JR根岸線「石川町(北口)」より徒歩10分
- みなとみらい線「元町・中華街駅」より徒歩1分

日程 総会 11:00～12:00 宴会場(2階)

講演会 12:00～13:00 宴会場(2階)

*箱根駅伝と東京高等師範(現筑波大学)についての講演を予定しています。

懇親会: 13:15～15:30 ボール・ルーム(2階)

*当日、参加者人数により、会場が変更となる場合がございます。

懇親会費等 10,000円(支部会費1,000円を含みます。当日、受付にて申し受けます。)

*本部会費 3,500円/年 の納入も受け付けております。

- ご出欠席の返信 **7月11日(木)までに、同封のはがきにてお知らせください。**
- 支部会費納入のお願い 当日不参加の方は、同封の払い込み用紙にて支部会費(1,000円/年)をご納入ください。

箱根駅伝 応援始末記

NHKの大河ドラマ『いだてん』が放映されていますが、ご存知でしょうか？ 高等師範学校（現筑波大学）の師弟（嘉納治五郎と金栗四三）を主人公とした「東京オリムピック囃し」です。もちろん『いだてん』とは日本における「マラソンの父」といわれる金栗四三のことです。

第一回の箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競走）は一九二〇年に開催され、その開催に金栗四三も尽力しています。出場校は四校（明治大学、早稲田大学、慶應義塾大学、そして東京高等師範学校）でした。多くの大学や専門学校は十人の選手を揃えられず、参加を断念したということです。往路は二月十四日、復路は二月十五日。午前中の授業を終えてからスタートしたため、夕闇の中のゴールだったといわれています。優勝校は東京高師でした。こうして、箱根駅伝は現在に至ります。

第一回開催から九十九年後。第九五回、平成最後の箱根駅伝が一月二日に開催されました。

この大会に、筑波大学二年生の相馬崇史君が出場しました。相馬君が学生連合の選手として往路五区を走るといふ情報を、

茗溪本部から頂いて、「現地で相馬君を声援する」計画を立てることとしました。年の瀬も押し迫る頃でしたが、大畑会長の下、大石事務局長を中心に実現に向けて動き出しました。

のぼり旗は茗溪本部で新調していただきました。一八〇cmの大ぶりの立派なもので、下に茗溪会と入れてもらいました。そのやりとりでわかったのですが、筑波大学のスクールカラーは紫色ではなく、空色なんです。相馬君が着用しているシャツも、その色でした。



第五区を力走する相馬崇史選手

※写真：筑波大学新聞、つくばスポーツ Online、筑波大学HP、小宮和之氏、有川秀明氏他

のぼり旗の送り先と保管場所が問題でした。大きな旗です。当日の駅や電車の混雑の中で持ち歩くのは騒音の的となるだけです。大畑会長を中心に、同窓の住所と小田原市街図を照らし合わせる作業が始まりました。

こうして、風祭近在にお住いの安藤啓一（S35 教国）先輩のご快諾をいただき、のぼり旗を当日まで保管していただけることとなりました。

一月二日（水）午前十時。

有志が「鈴廣かまぼこの里」に集合しました。鈴廣前は小田原中継所という重要地点で、多くの人が詰めかけ、沿道は場所取りのシートが敷かれていました。観戦ルール（中継所前後100mは、のぼりやプラカード持参の応援禁止）がありましたので、適当な場所を求めた末に、走路の反対側、中継所から約200m箱根寄り場所に陣取りました。走る選手にとって、視界がいきなり開け、目につく場所です。



のぼり旗を見て筑波大生4人が声をかけてきました。箱根寄りで応援したいと湯本方面に歩いて行きました。

のぼり旗を組み立てた頃に、川田理事、陸上競技部OBが合流しました。テレビ観戦している佐々木悦子氏からメールが入ります。「平塚中継所に学連選手が到着、順位は22位、トップとの差は、11分27秒です。行けー（原文）」小柄な身体全体を使い力走する相馬君が見えてきました。

「相馬、頑張れ！」
「筑波ファイイト！」

応援に参加した全員で大きな声援を送りました。のぼり旗も左側に大きく振られています。相馬選手が走り去った後、周囲には全力で応援した余韻が残っています。・・・宣揚歌斉唱！

最後に、「桐の葉」を唄い、筑波大学へのエールを箱根の山に向かって送りました。

（大石事務局長の報告より）



相馬君を激励する川田理事と加藤会長代行

- 【応援参加者 計20名】
- 川田 孝一（S39 教総農）
 - 関口 和敏（S47 教農）
 - 高橋 悟（S48 教体）
 - 中村 伸二（S51 教農）
 - 室橋富美夫（S53 筑体）
 - 森 二郎（S53 筑体）
 - 西塚 祐一（S55 筑体）
 - 加藤 充洋（S56 筑一社会）
 - 大石 進（S56 筑体）
 - 山本 栄一（S60 筑一人文）
 - 吉田 豊（S61 筑三社工）
 - 吉田 京子（H3 筑体）と御子息二人
 - 岡野 正之（H1 筑一自）と奥様
 - 川口 浩一（H1 筑三基）
 - 内野 延泰（H8 筑一社会）
 - 猿渡 篤（H13 筑修環）
 - 永見聡一朗（H23 筑情報）
 - （筑波大学現役学生等5名）
- 【その他支援を頂いた先輩】
- 安藤 啓一（S35 教国）
 - 安藤 彬（S38 教体）
 - 椎谷 勝彦（S41 教体）
 - 佐々木悦子（S46 教体）
 - 船原 勝英（S49 教体）
 - 大畑多津雄（S52 教数）
 - 矢野 正人（S53 教院修農経）
 - 石塚 靖夫（S53 筑一人文）